

ジャグパル

JugPal

2002年3月3日 第15号



インタビュー

【サイバーインタビュー ～ミス・サリバンさん～】

はじめに:

今回は関西方面を中心に活躍されている、ジャグリングパフォーマー "ミス・サリバン"さん
<info@miss-sullivan.net>に電子メールでお話をお伺いしました。

まずはサリバンさんの略歴紹介ですが、彼女自身のサイト(<http://www.miss-sullivan.net/>)から引用させていただきます。

『16歳でタレントデビューし、舞台・TV・映画などに出演し、19歳の時、パントマイムショーで、イベント等に出演するようになる。翌年ジャグリングに出逢い、本格的にパフォーマーとなる。現在、世界でも数少ない女性ジャグラーとして日本各地で活躍中。また近年では、海外からの出演依頼もある。』

2001年: オーストラリア ローンセストンフェスティバルに参加。
2000年: 「大道芸ワールドカップ in 静岡」やじうま人気投票1位。
「第2回天満天神街道芸祭」優勝。
1999年: テレビ東京「TVチャンピオン」準優勝。
1998年: 米国CREATIVE PERFORMANCE学校に短期留学。
ニュージーランドにて公演。
その他: NHK TVドラマ「アイキャッチャー」「料理少年Kタロー」、
テレビ朝日「暴れん坊将軍」、朝日放送「探偵！ナイトスクープ」、
映画「ちんちろまい」(武田鉄也主演)などにも出演。自分のスタジオにてジャグリング教室も開く。



もちろん一番お美しい方がサリバンさん

Q: まずは"ミス・サリバン"という芸名の由来を教えてくださいませんか。

A: よく聞かれる質問ですね。

私がパフォーマンスを始めたときは、まだ大学生でした。その大学は、国立大阪教育大学の第2(夜間学部)小学校教育五年生過程で、つまり、小学校の先生になるための勉強をしていました。

そこで、その時所属していたイベント会社の社長さんが、先生だからということで、ヘレンケラーの先生の名前から、名づけてもらいました。(似てたのかな～?) エド・サリバンからじゃあないんです。

ちなみに、大学生の時から先生になるつもりはなく、昼間に女優のお仕事をしていたので夜間に行ったんですけどね。それなら、なぜ大学に行ったって!? 内緒!。

でも、とても楽しかったので、ちゃんと卒業しました! ちなみに卒論のタイトルは、「エンターテインメントとサーカス その魅力と教育的可能性」。

Q: 去年の静岡でのショーを拝見させていただきましたが、内容もさることながら印象的だったことが幾つかあったのでそれらについて伺います。

片手側転やバク転などアクロバティックな動きにくわえ、身体の柔軟さが美しかったです。例えば学生時代に体操等の経験がおりますか。

A: 中学時代だけ体操部でした。中学3年生で引退したら、体がなまると思って、ジャズダンスを始めました。それで、半年に1度ぐらいは、舞台上でバク転をしてましたかねえ。

Q: TVチャンピオンに出演された頃に比べると一輪車上でのジャグリングが格段に安定したように見えました。

相当練習されていると思うのですが、一輪車上でのジャグリングはお気に入りの演目でしょうか。また一番得意な演目は何でしょうか。

A: あの時は、朝6時から撮影で、しかも第2ラウンドを朝からやって撮影のために(アップのシーンなど)やり直しなどを撮って、へとへとになっているところに、夜9時位の出番でしかも残るなんて思ってなかったから、気持ちは焦ってるし、出番は最後でほんとに疲れていて体力も気力もなかったんです。(いいわけかもしないけど...)

だから、実はあの頃から、一輪車に関しては、あまり上達してないかも...練習しなきゃねえ。

練習では、2回転、足の下、背中の後ろなどやっています。

でも、なかなか本番には、もっていけないですね。試せる現場がなかなかなくて...

私が好きなのは、やっぱりクラブとディアボロですね！

Q: 衣装がとても素敵でした。デザイン等は自分でお考えになるのですか。

A: ありがとうございます。もちろん自分で考えます。作ることもあります。

Q: 演技終了後にサインを求める観客がここ近年増えつつあるように思うのですが、サリバンさんの場合は特にその人数が多くてビックリしてしまいます。

あれだけの人数に対して、一人一人と談笑しながらサインをするのは、ある意味ショーより大変なことだと思うのですが、いかがですか。

A: うーん。大変ですが、よりコミュニケーションがとれるのは楽しいです！

ただ、学生さんで一人がもらって、とりあえず私も！僕も！というのは、ちょっとしんどいです。

Q: さてサリバンさんはご自分のショーの構成や演出、あるいは音楽といった裏の部分は全てお一人でこなされているのでしょうか。

A: はい、ショーに関しては全部自分でやります！(今のところ)

Q: 女性という視点からの質問は度々受けられておられるでしょうから、今さらと閉口されてしまうかもしれませんが、男女の違いそのものが個性とするならば、一般的な観客が求めている女性ならではの華やかさや優しさがサリバンさんのショーには溢れています。

かつテクニカルな面でも十分にアピールしているので、老若男女問わずに誰にでも好かれるのでしょうか。

ご自分の個性(キャラクタ)について何か伺いできれば幸いです。

A: キャラクターについては、ずうーと悩んでいます。衣装がいつも一番悩みます。

動きやすく、女性として...今のキャラクターは、ミス・サリバンです。一番本当の自分に近いと思います。私のモットーは、「いつも明るく元気よく！」です。

ただ、ミセスじゃないの？ってよく聞かれるけど、あくまでキャラクター(ステージネーム)であって、ミセス・サリバンは、ちょっと怖い・怪しいキャラクターです。こちらの方が先生って感じ。

今まで、ドクターサリバンや、新妻サリバン、掃除婦サリバンなんかもやりました。(たのしまナイトにて)

キャラクター創りは、本当に難しいです！

テクニカルについては、もっと見せたいのですが...って感じなんですけど...

でもプロのジャグラーというからには、ある程度テクニカルな部分は、見せるべきだと考えています。

Q: サリバンさんは、「HERO STUDIO」という個人の練習スタジオをお持ちのようですね。

プロ、アマ問わずにパフォーマーの方々は、練習場所の確保に苦労をされているので、とても羨ましく思います。スタジオができるまではどういったところで練習していたのでしょうか。

またスタジオができてから練習の上で、あるいはトリックやショーの構成を考える上で、何か変化が出てきたのでしょうか。

A: やっぱり、やはり近所の公園とかビルの下とかで練習しましたね。

今は、夜遅くとかやりたい時にできるからうれしいですね。

(夜一人で女の子が練習しているとナンパされたり、酔っ払いに声をかけられたり、人が通るたびにどきどきしたりと難しいです。)

また、音楽をすぐ選んだり、合わせて練習できるのは、本当に幸せです。

Q: スタジオでジャグリング教室を開催されているようですが、昨今のジャグリングブームでサリバンのようなパフォーマーになりたいという女性の生徒さんも多いのではないのでしょうか。

A: 最近増えました。いま、教室のメンバーは男女ちょうど半分づつぐらいです。子どもですらそうです。

Q: そういった夢を持った全国の方に何かメッセージをいただけますか。

A: Practice! Practice!! Practice!!!

Q: 略歴を拝見させていただくと、活動が多岐にわたっておられますね。

様々な活動をされていると言うことは、自らがいまだ発展途上であり、言い換えるとパフォーマーとしてのさらなる可能性を探っているものと思われるのですが、例えば5年後、あるいは10年後のサリバンさんはどうなっているのでしょうか。

A: ジャグリングについては、日本のソロ女性ジャグラー第一人者(?)として、まだまだ、テクニックを伸ばしたいと思っています。

将来は、世界のエンターティナーとして確立していきたいと思っています。

私の夢は、まだまだ叶わないのですが、おばあさんになっても舞台や、人前で、演じ続けていることです。

Q: 今までに一番印象に残ったショーは何でしょうか。

A: 大道芸で言えば、まだ、本当の大道芸をやり始めて間もない頃(イベントが先だったので)、冬の寒 - い時に大阪城でショーをやって、すごい少ない人数のお客さんだったけど、とても盛り上がり、そのときに車椅子のおじさんが、1万円札をくれたことかな。

それは多分、うれしかったとともに、その人の人生において大きな影響を与えるかもしれない責任感! ? ステージでいえば、やっぱり小学校で行っている3人組みの「トッピング」かな。

構想から3年がかりで創って、途中でメンバーが変わったり、何回も改良し、合宿練習までして、いまだ完成とはいえない作品。後でみると欠点だらけだけど、その時その時に改良を重ねながら一生懸命練習すると、それに答えてくれるかのように、こどもたちが大声で笑ったり、怒ったり、びっくりしたり、とてもいい反応をしてくれて、とにかくとても楽しんでくれる姿をみるのが、こっちも元気づけられて毎回とても感激です。時には、花束をもらったりして。

たのしまナイト:大阪で芸に磨きをかけ新境地を目指して、ジャンルを越えた芸人達が集まり、月1回開催されるライブ。

[ミス・サリバン <info@miss-sullivan.net>]

おまけ:

さて今回は特別企画として、ミス・サリバンさんをよくご存じの方々から、コメントやエピソードをこっそりとお伺いしましたのでご紹介いたします。

(Aさんから)

とにかく素敵すぎる人で、はっきり言って悪い面が全くないと個人的に思っています。
あれほどの美人で性格もピカイチ、おまけに裏表が無い人はめったやたらといません。

(Bさんから)

知っている限りのことを書きますと、会う度に、ショーで見る明るさ、たくましさ、女性らしさ、朗らかさそのままの人ですし、スクール開いたりして面倒見もすごくいい方です。
また個人的にも、これまで芸のことで色々アドバイスをもらったり、芸がうまく行かず辛いときに励ましをもらって助けてもらったり、心の師匠みたいな存在です。

(Cさんから)

サリバンさんですか...かなりおもしろい人ですよ。ハキハキしてますが、抜けてます~。(なにしても許せませぬ) 体育会系な人ですね。裏表ないです。

・筋肉質

一見キュートでかわいらしいですが、普通の男の人ではかなわないくらいの筋肉の持ち主でもありますよ。

練習好きです。

・負けず嫌い!

ご飯を食べに行く際、行き先のお店を決めて車で二手に分かれたのですが、サリバンさん車は飛ばす飛ばす...かなりのスピード狂、というより、何でも「負ける」のがイヤなのだそうです。

食べ終わった際車に戻ると、鍵がかかっていなかったのは言うまでもありません。(本当に急いでたのね~)

・かわいらしいぬいぐるみ!?

サリバンさんの自宅には、いろいろなぬいぐるみが置かれています。かわいらしいでしょ?

しかし...これがまた...普通の人は怖がるようなブキミ~なものばかり...

「これかわいいやろー?」というものはたいがい、エイリアンのようなものばかりです。

おトイレにはズボンをはいた片足が落ちてます...(初めて入ったときは怖いよ...)

・ほのぼの

先日、舞台用のメイクをしているときに、「先生きれい!」って、ちいさな女の子にいわれてました。

なんかいい場面でした。

クリスマスには、家中クリスマスにしてたり、周りの人にクリスマスプレゼント配ったり、気配りも忘れません。

(だけど抜けてるのねー。きっと、ひとつのことに熱中すると、他のことがストーンとぬけてしまうタイプなんだと思います。愛すべきキャラです。)

(Dさんから)

サリバンさんとは、毎週とある劇団の稽古で一緒するのですが、毎回毎回笑わせていただいております。

「ウニ」と「膿」を間違えたり、「ヘルニア」と「ヘルペス」を間違えたり、切りがないです。

ざっとあげるとネタが次から次へでてくるのですが、

・降水確率30%というのを見て、大雨の降水量の3割が降ると思ったり、

・カーナビのリモコンを取ってもらうのに「サイドブレーキとって」と言ったり。

そんな言い間違いの多いサリバンさんですが、そのおかげで毎回楽しい稽古ができております。

とにかく筋トレが好きで、腹筋が割れてるのが自慢だそう。

即興の稽古でも、腕立て320回を始め、腹筋、背筋など、毎回やっています。

サリバンさんの開いているジャグリング教室でもやっているようなのですが...

とにかくにも、サリバンさんはとにかく楽しい人です。



東洋医学から見るジャグリングのすすめ 【第六回】

皆さんは、肩には3つの関節があるということを知っていますか？
「えっ、3つ？」・・・と、一般の方はそう思われることでしょう。実は肩関節は、3つの関節が協同して動くので、複雑な関節運動を行うことが出来るのです。今回は、一般的に皆さんが肩の関節だと思っている肩関節の話です。

肩関節

肩関節は、肩(肩甲骨)と腕(上腕骨)からなる関節です。
人体の構造にあまり興味のない方でも、「腕が背中後ろにある肩甲骨とつながっている」と聞いたら、普段意識していなかった背中後ろの肩甲骨が、なんだかジャグリングに関わってきそうな感じがしませんか？

実を言うと、腕は固定されている肩甲骨にくっついて動くのではなく、腕を動かすと肩甲骨も一緒に回旋して動きます。あまり肩甲骨が動いているという自覚がない方は、左手で右肩甲骨を押さえて、少しずつ右腕を上げて(バンザイして)みましょう。肩甲骨が動くのが分かります。

下図は、肩関節の外転という動作を3つの運動相に分けて書かれたものです。

第1相は、肩甲骨を動かさない状態では30度くらいしか腕が上がらないことを示しています。それ以上腕を上げようすると、肩甲骨が斜め上方に回旋します。これが第2相で、120度くらいまで上がります。
さらには腕に耳をつけるくらいに上げようすると、反対側の脊柱起立筋(胴体)が収縮し、腕を上げる側の胴体は伸張します。これが第3相です。

ジャグルポイント

初心者はボールの動きや前腕(肘から先)の動きに目が行きがちですが、肩甲骨を意識しだすと、とたんに上達が早くなります。

例えば、ミルズメス！(カスケードは肩甲骨が動かなくても出来るので)

肩甲骨を動かさずに、第1相だけで行うとどうなるでしょう？見るも無惨、左右の手は浅くしか交差できず、胴体も動かせないため、ミルズメスの軌道にはついていけません。もし上手な方が出来たとしても、すごく小さなミルズメスになってしまいます。(技が小さい)

次に第2相。肩甲骨を動かせば左右の手を深く交差でき、教科書通りの正確な軌道を通るミルズメスになります。しかし、ここまででは、最後のボールを真上に近く投げ上げるミルズメス止まりになります。

そして第3相。胴体の動きを使い出すと、3つのボール全て右へ、そして左へと、かなりプロっぽい動きになっていきます。見ている方もボールの軌道だけではなく、身体表現としても美しさを感じることでしょ。

上手な方の中には、あえて第2相の肩甲骨の動きを使わず、第3相の胴体の動きだけで、くねるようなミルズメスをされる方もいます。(肩とは別に胴体の柔らかさが必要ですが)

このように、肩関節一つとっても、体の使い方によって技の見え方は変わってきます。皆さんは、ボールの軌道が正確になった後、身体表現としても美しいジャグリングを目指して練習されていますか？

§ 次回予告 §

3つの肩関節の残り2つ、肩鎖関節と胸鎖関節を説明していきます。前回に説明した顔から首にかけての脱力は比較的簡単に意識することが出来ますが、肩関節はナカナカ大変です。

芸事や武道の世界でも「肩肘(かたひじ)の脱力とは一生向き合わなければならない」と言われています。何故ならば人間は日常ほとんどの動作を手で行い、ちょっと焦ったりしようものなら直ぐ肩や肘に緊張が生まれます。

またサラリーマンジャグラーの方々も、寝不足や疲労、ストレスなどにより肩甲骨の内側や背中が痛くなった経験があると思います。肩の周りがどうも堅いと感じている方は3つの肩関節の可動をフルに生かしたジャグリングを目指して頑張りましょう。

[MOMONTA]



- [A] 三角筋
- [B] 棘上筋
- [C] 三角筋
- [D] 僧帽筋
- [E] 前鋸筋
- [F] 僧帽筋
- [G] 三角筋
- [H] 僧帽筋
- [I] 前鋸筋
- [J] 僧帽筋
- [K] 反対側の脊柱起立筋



サークル紹介

小平ジャグリング倶楽部 (東京)・・・本号
 <<http://www.linkclub.or.jp/sue-hiro/jug/>>
 ホゴノプロフィス (仙台)・・・14号
 <<http://member.nifty.ne.jp/HOGONOPRO/>>
 周南ジャグリングクラブ・・・13号
 横浜大道芸倶楽部 YDC (神奈川)・・・12号
 <<http://www.01.246.ne.jp/yuji-k/>>
 ジャグチュー (北海道)・・・11号
 <<http://page.freett.com/sjc/>>
 大津ジャグリングクラブ (滋賀)・・・10号
 <http://www.biwa.ne.jp/torisan/ft_juggling.htm>
 ジャグリングクラブ tossLife (東京都)・・・9号
 <<http://www1.linkclub.or.jp/swing9th/tossLife/>>
 大阪大学ジャグリングサークル Patio (大阪)・・・8号
 <<http://juggle.hoops.jp/patio/>>
 京都大道芸倶楽部 Juggling Donuts (京都)・・・7号
 <<http://juggling-donuts.org>>
 福岡ジャグリングクラブ FJC (福岡)・・・6号
 <<http://zodiac30.cse.kyutech.ac.jp/ooshige/Juggling/>>
 筑波大学附属駒場中学・高等学校ジャグリング同好会
 筑駒Jugglers (東京)・・・5号
 <<http://www.geocities.co.jp/Berkeley/1242/>>
 所沢ジャグリングクラブ JUGFLY (埼玉)・・・4号
 <http://www2c.aimet.ne.jp/ichiro_t/juggling/jugfly/>
 綾瀬ジャグラーズミーティング JAM (神奈川)・・・3号
 <<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Sumire/9108/>>
 ジャグリングクラブ マラバリスタ (東京)・・・2号
 <<http://www.malabaristas.com>>
 ジャグリングサークル JUG (大阪)・・・1号
 北里大学獣医畜産学部ジャグリングクラブ (青森)
 <<http://www.geocities.co.jp/CollegeLife-Labo/5397/>>
 夢幻劇 (むげんげき)
http://k.excite.co.jp/hp/u/bee_company/ (茨城)
 ジャグリング友の会 (東京)

【小平ジャグリング倶楽部】

日頃使っている練習場は都心にあり、そこにつくまでは一時間。休日など、それが面倒なときに、地元の体育館でひっそりと練習していました。一人で使うには贅沢な練習場。

ふとしたときに、多摩地区にジャグラーはいないのだろうか、という疑問が湧き上がります。当時はちょうどジャグリングクラブが次々と出来ていた時期だったように思います。

そんな背景も手伝って、「一緒に練習する仲間を募集してみよう」と思い立ち、日本ジャグリング協会の掲示板に、その旨を伝える書き込みをしました。2000年5月12日のことです。こうして「小平ジャグリング倶楽部(KJC)」が誕生します。

<<http://home2.highway.ne.jp/sinzirou/>>
 立教大学パフォーマンスサークル どりいむ・ぼっくす (東京)
 <<http://www.rikkyo.ne.jp/00ia007t/doribo.htm>>
 ジャグリングクラブ まめぞう (東京)
 <<http://mamezou99.tripod.co.jp/index.html>>
 東京工業大学ジャグてっく (東京)
 <<http://www4.nasuinfo.or.jp/shu/index.shtml>>
 電気通信大学ジャグリングサークル "Le Passage"
 <<http://members.jcom.home.ne.jp/junkoma/p-index.htm>>
 市原ジャグリングサークル JugJug (千葉)
 <<http://www3.plala.or.jp/jugjug/>>
 千葉大ジャグリングサークル ポッサム
 <<http://www.sakurasoft.co.jp/possum/>>
 千葉東高校ジャグリング同好会
 <<http://www.geocities.co.jp/CollegeLife-Cafe/9745/>>
 静岡大道芸サークル WAPS (静岡)
 <<http://www.ne.jp/asahi/sodeya/com/petanc/>>
 New Japan Juggling Club (愛知)
 <<http://www.katch.ne.jp/mine/jug/>>
 春日井ジャグリングクラブ (愛知)
 <<http://www.tcp-ip.or.jp/n01/kjc/>>
 NJC (名古屋ジャグリング倶楽部)
 <<http://njc.xtaro.com/>>
 金沢大学ジャグリング&マジックサークルJMC
 <<http://jump.uic.to/uen0/>>
 福井ジャグリングチーム FJT (福井)
 <<http://www.geocities.co.jp/CollegeLife-Club/1734/>>
 E-ジャグリングクラブ
<http://www.h4.dion.ne.jp/juggling> (島根)
 大垣ジャグリング倶楽部
<http://www.ogaki-tv.ne.jp/doremi/index.html> (滋賀)
 四国ジャグリングクラブ (新居浜)
 <<http://powers.gr.jp/four-live/>>
 九州良児技団 (北九州)
 <<http://www.iris.dti.ne.jp/ritsue/>>
 九州工業大学 ピルエット
 <<http://pirouette.club.kyutech.ac.jp/>>



ウェブの力はすごいもので、一週間もすると練習に参加したい、とのメールが届きました。こうして練習にきてくれた方に頼んで、ホームページを作成しました。

以降、小平ジャグリング倶楽部はインターネットを媒介にして、徐々に規模を大きくしていきます。
現在のメンバーの大部分は、ウェブ上の情報を通して集まりました。
インターネットなしでは、現在の小平ジャグリング倶楽部の姿はなかったでしょう。

現在は、毎週土曜日夕刻より、市内の体育館で練習をしています。
参加者は小学生から社会人、初心者からジャグリング歴の長い人まで、多岐にわたります。
参加人数はだいたい15人から10人といったところでしょうか。レベルはさほど高くはありませんが、それぞれ思い思いにジャグリングを楽しんでいます。

最近、5ボールの習得を目指すひとたちがあつまり、練習毎に5ボールバトルが繰り広げられています。
年間最多勝利を勝ち取った人には、賞品があるとか、ないとか。

デビルスティック熱も高まりつつあります。
新しい技を開発しあったり、コンビ技を磨いたり、あるいは、互いに競いあったり。
デビルスティックに限ったことではありませんが、このようにしてみんなで技術を高めあいつつ、練習に励んでいます。

これら定期練習に加え、地元地域のイベントでの公演も行っています。
毎回毎回、試行錯誤の連続です。パフォーマンス歴の長いひと、はじめてパフォーマンスをするひと、毎回公演に参加するひとみんなで話し合っ、演目を決めていきます。

みんなで話し合ったことが、ピタっときまり、会場から笑いや拍手が起きたときには、それはもう！



情報

【横浜にぎわい座】

[広報よこはま 平成14年1月版より]
落語・漫才などの寄席芸や大道芸などの大衆芸能の振興拠点となる、芸能センター(名称:横浜にぎわい座)が竣工し、4月13日に開館します。
横浜にぎわい座は、現在大道芸が毎年開催されている、中区野毛町の一角に作られた、地上13階建ての再開発ビルのうち、地下2階から地上5階を占めています。

芸能センターについて

名称:横浜にぎわい座

所在:中区野毛町 3-110-1

施設概要:芸能ホール(410席)

小ホール(200㎡)

情報コーナー・制作室

最寄駅:JRまたは東急東横線「桜木町」から徒歩3分
京浜急行「日ノ出町」から徒歩7分

問合せ:市民局文化企画課(045-671-2289)

このようなお客さんのリアクションが小平ジャグリング倶楽部の活力源の一つでもあります。

ジャグリングを通して人がつながり、ジャグリングを楽しむ。その楽しみが、ときにはパフォーマンスという外への発信を通して、人の輪が広がる。
KJCではこのような「つながり」を大切にしていきたい、そう考えています。

その一環として、去年秋に、ジャグリングクラブ・まめぞうの方々と共に「日本ジャグリングDAY」という、ジャグラーの交流の場を設定しました。(なお、第2回日本ジャグリングDAYは3月終りに予定しています。)
また、そのイベントでの出会いから、昨年暮れには、所沢ジャグリングクラブ・ジャグフライと合同発表会を開きました。

ジャグラー間の交流だけでなく、ジャグリング普及活動もしています。
練習前には近くの公園で、近所の子供相手のジャグリング教室が自然と開かれたり。
ただ、子供に遊ばれているだけ、という噂もあります。

ちょっとしたことです。このようにジャグリングに小さいうちから慣れ親しんでもらうことで、もしかしたら小平発の世界に通用するジャグラーが生まれるのでは? なんて夢想するのもまた楽し、です。

以上、小平ジャグリング倶楽部の活動内容を簡単に紹介してみました。

より詳しい活動内容、練習日程などは、ホームページ上に載せてあります。お近くにお寄りの際は、ぜひ遊びに来てください。お待ちしております！

【矢熊 進之助 <yaguma@mns2.c.u-tokyo.ac.jp>】

早めの編集後記

働き過ぎでもう2ヶ月近くジャグリングをしていない。いかんいかん。でも一度覚えたトリックっていうのは忘れないものですね。(と、いつも安心してしまっからちっとも上達しない私でした)

ジャグパルはWeb上でも見られますので、紙での郵送が不必要な方はご連絡ください。

WebSite: <<http://homepage1.nifty.com/abesan/>>

編集発行人: 安部保範

住所: 横浜市栄区公田町424-9 (〒247-0014)

E-mail: abesan@dream.com Nifty: QGB02014

WebSite見世物広場:

<<http://plaza4.mbn.or.jp/~chansuke/>>



音楽とルーチン

【音楽とルーチン】

ジャグリングの腕前が上がってきて人前で見せるようになってくると、自分のできる技をつないだルーチン routine を作りますが、そのとき迷うことの1つに「どんな音楽を使うか?」、「ルーチンと音楽とどうあわせるか?」があります。

ちょうど最近、私も新しいルーチンを作っているのですが、どんなことを考えて作っているか書いてみました。やり方は人それぞれで、私のやり方は一例に過ぎませんが、参考やヒントになれば幸いです。

ここでは、しゃべりを交えた大道芸などの単なる BGM ではなく、ステージ上で演じるためのルーチンとその音楽について書きます。

なぜ音楽が必要か?

そもそもなぜ音楽が必要なのでしょう?

音楽があれば、ジャグリングにリズムを与え、技のタイミングをとることができます。でも、音楽を使う一番の理由は「ルーチンに意味を持たせ、観客の感情に訴える」ためです。

音楽の力というものは大したもの、軽快な音楽を聞けばうきうきした気持ちになり、低音でゆっくりした荘厳なクラシックを聞けばなんとなく芸術的な感じがし、曲調が変わってテンポが速くなったりドラムロールが入ったりすれば「あ、ここがクライマックスなのだ」と分かります。

音楽にはすべて意味があり、曲のリズム、メロディ、使っている楽器、そして歌詞の相乗効果で聞く者の感情に訴えかけます。

ルーチンに音楽を使うのは、単なる技の羅列を観客に見せるのではなく、「このルーチンを見て、どんな気持ちになってほしいか?」を、音楽の力を借りて観客に伝えるためなのです。

音楽を選びルーチンを作る前に、自分は「すごい技を見せて観客を圧倒したい」のか「観客を笑わせたい」のか「美しいものを見せたい」のか、まず考えましょう。あるいは逆に音楽を聴いて、「この曲を使えば、観客をどんな気持ちにできるか?」を考えるのもよい方法です。

どんな音楽がよいか?

では、ジャグリングのルーチンに使う音楽として、どのような曲がよいのでしょうか? たぶん絶対の正解はありませんし、皆が同じ基準で曲を選んだら面白くないでしょう。

一例として、アメリカのプロジャグラー、ディック・フランコ Dick Franco 氏はワークショップの中で以下のようなことを言っていました。

「音楽は8拍子のものが一番いい。ルーチンの中では、観客に分かりやすいように同じ技を何度か繰り返す必要がある。8拍子なら、1,2,3,4,5,6,7 と技を繰り返して、最後の8でピルエットや高いトスを入れて次の技へつないでいくことができるといい。私は作曲家に頼んで自分のルーチン用の曲を作ってもらっている。」

専用の曲を作曲してもらうのは難しいとして、市販の曲から探すには次のような点に留意するとよいでしょう。

- (1) リズムがはっきりとしていて複雑過ぎないもの
- (2) 曲の中で盛り上がる部分がはっきりしているもの
曲の中で盛り上がる部分があると、ルーチンの山場をそこに合わせて、メリハリを付けることができます。
- (3) 一貫して音量が大きめで、音量の大小の差が少ないもの
音量の大小の差が激しい曲は、大きい部分にボリュームをあわせると、小さい部分は客席の雑音にかき消されてしまうので避けましょう(クラシックに多い)。
- (4) 主旋律が繰り返し出てくるもの
主旋律が繰り返し出てくると、曲全体の流れが覚えやすく、振り付けもしやすいように思います。
- (5) 踊りを付けることを前提に作曲されているもの
たとえば同じクラシックでも、曲そのものを聞かせるのが目的の交響曲は曲の流れが複雑で合わせるのが難しく、踊るために作られたバレエ用の曲などは合わせやすいです。
現代音楽や民族音楽でも、踊るための曲の方がリズムがとりやすく使いやすい。
- (6) 自分が聞いていて楽しいもの
練習のたびに何度も繰り返し聞くのですから、自分が嫌いな曲を選ぶととても苦痛です。あまり自分の好みから外れたものは避けた方がよいでしょう。
- (7) 歌が付いていないもの
歌が付くと曲の意味が具体的になり、使える用途が狭まります。
その歌の意味とルーチンの内容や演出が結びつけられればとても強力ですが、そうでなければ避けた方がよいでしょう。

外国語の場合も、曲の大意(ラヴソングとか)ぐらいはつかんでおかないと思わぬ恥をかきます。歌が付いていない曲を探すには、歌手やバンドではない演奏家のアルバム、映画やドラマのBGM集、民族音楽、クラシックなどがねらいどころでしょうか？

(8) 流行曲でないもの

もしずっと使い続けるつもりルーチンを作るのであれば流行曲は避けましょう。大ヒットした曲ほど、流行が過ぎた途端に古臭く感じられ、ルーチンごと捨てるはめになります。学園祭など一度限りのルーチンなら、まったく問題はありません。

(7),(8) は好みや演出の問題で絶対の条件ではないとはいっても、これだけの条件をすべて満たす曲を探すのはとても難しいことです。

その一方で、自分がやりたい演技と完全に合った曲を見つけることができれば、もうこちらのもので。頑張っ

て捜しましょう。逆に、普段何気なく音楽を聞いていても、聞いた途端に「ルーチンが目の前に浮かぶ」曲に出会うことがごく稀にあります。そのような好機は逃さず、なんとか曲名を調べてメモしておきましょう。

曲の探し方

さて、前項の数々の条件を満たす曲を探すにはどうすればよいでしょう。方法は2つしかありません。

- (a) 使えそうな曲がないか、常に気にかけておく
- (b) 使えそうな曲を探して聞いて聞いて聞きまくる

そのための手段として以下のものがあります。

(a-1) 普段の練習のときから、技のリズムを意識する
たとえば、ミルズメス Mills Mess は3キャッチごとに方向が入れ替わり、3拍子のワルツのリズムを持っています。またシャワーは、カスケードよりもテンポが速くなる人が多いでしょう。このように自分が練習している技がどんなテンポとリズムを持っているかを意識していると、曲を聞いたときに「ルーチンが目に浮かぶ」ようになります。

(a-2) 普段からテレビ、ラジオなどで知らない曲に接する
当然のことで、音楽好きの人には何でもないことでしょう。人によっては努力が要ります。

(a-3) 曲名を調べる手段を手に入れる
音楽に詳しくて鼻歌を歌えば曲名をあててくれるような友人がいれば別ですが、これは結構難しいことです。テレビ番組のテーマなどはレンタルCD店にコーナーができていますし、有名なCMのBGMもそのようなコーナーにあります。また、映画やドラマのテーマ曲や挿入曲を集めたサントラ盤は大きなレコード店やレンタルCD店で手に入ります。

音楽専門の番組で取り上げた曲ならテレビ局、ラジオ局、有線放送局に問い合わせることも可能かもしれませんが、しかしBGM程度にちょっと使われている曲は問い合わせてもまず分からないでしょうし、聞くだけ迷惑と違って遠慮したほうがよいでしょうね。CMの曲は、広告主の会社の広報部に丁寧に問い合わせ

て教えてもらった経験があります。ネット上の掲示板などで訊くという方法もありますが、同じような質問はネット上にあふれており、期待は禁物です。場所によっては嫌がられることもあります。いずれにせよ、聞くほうは軽い気持ちでも、答えるほうは大変なので、聞いてよいものかどうか、よく考えましょ

う。テレビやラジオで気になる曲が流れているときにボタンを押して時間を記憶させておき、後でPCにつないでデータベースから曲名を調べることができるemarkerという小さな商品があり、私も最近買ってみました。調べられる曲にいろいろ制限もあるし、まだちゃんと使っていないのでお勧めかどうかは分かりません。
<http://www.japan.emarker.com>
実際に使って次号あたりでご報告できればと思います。

(a-4) ビデオなどで他のジャグラーが使っている曲を使う
このパターンの質問はよく見かけますが、できれば避けた方が良いでしょう。同じ曲を使ったからと言って演技まで似たものになるわけではないと思いますが、もとのビデオを見た人にとっては「手垢のついた」イメージになりますし、何より同じことを考える人は多いのでコンテストなどに出るつもりなら不利です。

(b-1) レンタルCD店からCDを借りる
お金はかかりますが、それなりに有効な方法です。アーティストや作曲家が絞られていれば有効ですし、分野が絞られていれば「どこかで聞いたクラシック」などの有名な曲ばかりを集めたオムニバス盤や曲の傾向別に編集したオムニバス盤を聞いてみるのも有効です。また、キーワードで検索できる曲検索端末が置いてある店もあり、ドラマのテーマ曲やCMに使われている曲、題名がうる覚えの曲を探す上で助けになります。

(b-2) 図書館から借りる
図書館によっては CD の貸し出しをしているところもあります。量や分野は限られますが、お金を節約したい場合は検討の価値があります。

(b-3) ネットワーク上で試聴する
たとえば <http://www.amazon.co.jp/> では、販売している CD の一部を試聴することができます。試聴自体は無料とはいえ、PC と十分なバンド幅を持った通信回線が必要です。

(b-4) 自分で作曲する
いっそ自分で曲を作ってしまうのも手です。最近では携帯の着信音を自分で作るための作曲支援ソフトなどもあるようなので、音楽の心得のない人でもできるかもし

れません。機会があれば試してみたいと思っています。

さて、長くなってしまったので、ここで稿を改め、次号では曲を見つけた後でのルーチンとのあわせ方を中心に書いてみたいと思います。

曲の探し方、使い方については、人によって方法や考えが違い、絶対というものはないでしょう。「自分はこう考える」「こんな方法もある」などのご意見がありましたら、JugPal の掲示板あるいは筆者へのメールなどで是非お知らせ下さい。

[西川 正樹 <nishi-m@tkf.att.ne.jp>]



フーズフー

[Claude E. Shannon さん (1916 - 2001)]

工学系出身者(あるいは在学中の方)ならば、一度は目に、あるいは耳にしているはず。Claude Elwood Shannon (以下シャノン)の名を。

シャノンは、20世紀を間違いなく代表する、それはそれはとても偉大な学者で、0と1で表現される、デジタルコミュニケーションの礎を築きました。つまり彼の功績なくして現在のインターネットやケータイはあり得ないと言っても過言ではありません。

私なんぞは会社で実験結果等の考察を上司に説明する時には、「シャノンいわく……」などと彼の名前を出して話をはぐらかしたり、説明に重みを付けたりと、時折お名前を拝借しています。(いい加減な奴です、私って。)

2001年2月24日に亡くなられた際、雑誌JUGGLE(May/June 2001)に訃報が載り、その時初めて彼がジャグリングの世界でも著名であることを知りました。

ジャグラーであると共に、彼の「ジャグリングロボット」と「ジャグリング理論」は、特に有名なようです。

雑誌KASKADEでも2号(1/2002 ~ 2/2002)にわたって彼の特集が組まれ、このロボットと理論を取り上げています。(2/2002はまだ手元に届いていませんが)

1970年代には数学者たちの間でジャグリングをするマシンについての論議が盛んになった際、投げ上げるのは容易でも、キャッチするのが難しいという課題を、シャノンはバウンスという手段で解決しました。

つまりトスジャグリングよりバウンスジャグリングの方が実現しやすいということです。

彼の作ったジャグリングロボットは、アメリカのコメディアン・ジャグラー W.C.Fields に似せ、3つのスチールボールをカスケードのリズムでドラムに落とし、戻ってくるボールをキャッチするというものです。

それ以外にも、3次元版回転覗き絵風ジャグリングマシンやらジオラマ風ジャグリングマシン等、TOY 好きの彼ならではの茶目っ気あふれるマシンがあります。

それらの写真は以下のサイトで見られます。

<http://www2.bc.edu/~lewbel/shanpics.html>

また Arthur Lewbel 教授のサイトには動画も収録されています。

<http://www2.bc.edu/~lewbel/Shannon.html>

ジャグリング理論については、読んでみると話がややこしくなりそうだし、私自身あまり興味がわかないので省略。(いい加減な奴です、私って。)興味がある人は上記サイトへ直行!

W.C.Fields(1880? - 1946)について

1920-30年代のサイレントムービーでのパフォーマンスでよく知られ、10代でプロデビューした彼は、奇抜な風貌と衣装から“The Eccentric Juggler”として芸風を確立した。高度なトリックを使いながらも、しゃべりも入れずにあくまでコメディジャグラーとして、観客に印象づけた。彼の考案したビリヤード台を使ったトリックは有名……のようだ。

参考 <http://www.juggling.org/fame/fields/>

[安部 保範 <abesan@dream.com>]